

2023_1212「善光寺平（写真）」日々の理科 3414号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「善光寺平」というのは「長野盆地」の別称です。古くからそう呼んできた地元の方々のみならず、山をやっている人々も「長野盆地」とは思わず「善光寺平」と呼ぶ者が多いように思います。山岳小説で有名な新田次郎も自作の中で長野盆地のことを「善光寺平」と表現しています。長野盆地はいわゆる「フォッサマグナ地溝帯」の一部を成し、その上を千曲川やその支流の非常に深い堆積物（主として新生代第四紀）が覆って形成されています。

私はこの善光寺平を高い場所から俯瞰するのが好きです。前回見たのは篠ノ井線の「姨捨駅（おばすてえき）」のホームから眺めた時です。ちょうど田植えのシーズンで棚田に水が張られて、非常に美しい光景でした。それ以来、新幹線や自家用車では「盆地の底」を何度も通過しましたが、俯瞰からは遠ざかっていました。

しかし先月の長野市での研究会に参加して、最後にお邪魔した小学校から、善光寺平を一望することができました。千曲川の流れと疾走する北陸新幹線、長野盆地の北西縁を明瞭に分ける山嶺が一望できました。私はこの景色を眺められただけでも、長野に来た意味があったように思いました。

それにしても「善光寺平」とは、何と美しく何と郷愁旅情を誘う地名でしょうか。地理院の地形図にも「長野盆地（善光寺平）」とはっきり記載してほしいと思いました。

(2023年11月下旬／長野市郊外)

